

⑫道路協力団体「金沢片町まちづくり会議」と連携した地域活性化の取り組み ～犀川大橋を活かしたまちづくり～

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

キーワード 日本最古のワーレントラス形式の道路橋、ライトアップ、オープンカフェ、全国第1号の「道路協力団体」

全建賞審査委員会の評価ポイント

町中のシンボルである犀川大橋を活かしたライトアップやリバーカフェなどの地域活性化の取り組み。道路協力団体と協働して、道路法改正に先立って賑わい空間を歴史的建造物である犀川大橋で実現した点や、地域活性化の取組を地域の団体と連携し継続して実施している点が評価された。

1. はじめに

石川県金沢市のシンボルとして親しまれている犀川大橋は、国道157号の金沢市片町と野町を結ぶ、二級河川犀川に架かる橋である。藩政期の架橋からその姿は何度も変わっているが、現在の犀川大橋は大正13年（1924年）に竣工し、日本で最古のワーレントラス形式の道路橋として国の登録有形文化財に指定されている。

金沢河川国道事務所では、犀川大橋を舞台に、道路協力団体である「金沢片町まちづくり会議」と連携し、地域活性化を図る様々な取り組みを行っている。

2. 事業の概要・成果

犀川大橋を地域活性化に活用していく方針は、平成25年3月に金沢市が策定した「片町地区再生基本構想」及び同構想を基に平成26年3月に金沢片町まちづくり会議が策定した「犀川活用プラン」に位置づけられている。計画の中で「犀川大橋のライトアップ」や「オープンカフェ」といったキーワードが挙げられた。

金沢片町まちづくり会議は犀川活用プランを基に、ライトアップされた犀川の河川敷を眺めながらライブステージやオープンカフェを楽しめる「サイガワあかりテラス」を平成26年から開始した。平成28年9月に開催

した「サイガワあかりテラス2016」では、金沢河川国道事務所において、河川敷のライトアップにあわせて犀川大橋のライトアップを実施した。ライティングデザイナー監修の下、犀川大橋の構造美が照らし出された。平成29年4月からは恒常的に犀川大橋でのライトアップを実施している。

また、金沢片町まちづくり会議では、犀川大橋周辺での花植や清掃活動による道路美化活動を継続的に行い、まちの景観形成や道路維持等によるまちづくりを行ってきた。特に、金沢片町まちづくり会議の中核をなす「金沢中心商店街まちづくり協議会」は平成19年に「ボランティア・サポート・プログラム協定」を締結し、金沢河川国道事務所と連携・協働して取り組みを行ってきた。

これらの道路美化活動、サイガワあかりテラス、ライトアップ等の活動実績及び公共性が認められ、金沢片町まちづくり会議は、平成28年12月に全国第一号の「道路協力団体」の一つとして指定された。道路協力団体の指定により活動の収益化が可能となったことを受け、平成29年4月には「犀川リバーカフェ」を開始している。繁華街に向かう前のゼロ次会の立ち飲みバーをコンセプトに、犀川大橋の高欄に設置されたカウンターでアルコールや軽食を楽しむことができる。収益の一部では、犀川大橋上に花のプランターを設置する景観美化活動を行っている。



犀川大橋ライトアップ



犀川リバーカフェの様子

3. おわりに

今後も金沢河川国道事務所は金沢片町まちづくり会議とともに、地元にも愛されている犀川大橋を活用して様々なイベントを開催することで賑わいを創出し、地域活性化に貢献していく。